# 湖南高校だより

## 卒業生２３名の前途に幸あれ！

一学年一クラスとなった最初の卒業生二十三名が、とうとう本校を巣立っていきます。何よりも喜ばしいのは、三年前の入学式に教室に顔を揃えた全員を、この学び舎から送り出せることです。今年度より卒業証書の授与も、代表生徒ではなく、卒業生全員に手渡しすることになりました。毎年、感動を呼ぶ小規模ならではの卒業式に、また一つ、湖南高校らしい場面が加わりました。

### 卒業の今、思うこと

少人数がゆえに一人ひとりの役割が大きい本校で、集団を牽引し、一方で集団を支える「サブ」のポジションはとても大切でした。卒業にあたって、運動部の「副」部長を務めた三人に「今、思うこと」を聞きました。

ソフトテニス部の副部長の永井歩望さん。彼女は、働きながら学ぶ道を選びました。その溢れんばかりの思いが伝わってきます。「高校生活を振り返ってみると時の流れははやく、入部する予定もなかったテニス部を三年間本気で続けている自分がそこにいました。私の高校生活は、まさに青春でした。仲間同士の喧嘩、テニスができなくて諦めたこと、部を辞めようと思ったこと。沢山の物語がありました。もっと頑張って練習をして、上位大会まで進出し、顧問の大典先生を喜ばせてあげたかったと、今は後悔をしています（笑）。入学した頃は、三年間なんて長すぎると思ってたけど、流れるかのように時間は過ぎ、まだまだやり残していることが一杯あったな…って感じています（涙）。でも、一つ胸を張って言えるのは「湖南高校に入学して良かった」ということです。本当に人に恵まれました。後輩の皆さんも、充実した高校生活にするために、やらないで後悔するよりも、やってみる方を選んで下さい。最後に、二十三名のみんな、先生方、地域の方々、本当にありがとうございました。出会えて良かった！湖南高校が大好きです」

「洋服の青山」さんの協力を得て、3年生を対象に『着こなしセミナー』を開催しました。

成績も優秀で文武両道を果たした卓球部の副部長相樂翼君は、三年間を振り返って次のように語っています。「あんなに未熟だった三年前の私たち二十三名。今、成長を実感しています。私たちを見守って下さった先生方、地域の方々、そして家族に、感謝・感謝です。振り返ってみれば、心のすれ違いや言葉の衝突もありました。しかし、そのような難所を乗り越えたからこそ、今、こんなに素敵な関係をお互いに築きあげることができたのだと思います。私たちの高校生活は、とても短かったと今感じています。しかし、その三年の間に、たくさんの人に出会うことができました。そして、深い結びつきを持つことができました。皆さんのことは、一生忘れません。」

意を決し、卓球部からボート部に移り、副部長を務めた赤城吉雄君は、挑戦することの大切さを本校で学んだようです。「中学生の頃、授業内容についていけず、何もかもが嫌になり、授業中は居眠り、家に帰ってもゲームをするだけの毎日でした。しかし、湖南高校に入学してから、人生が変わりました。授業に真面目に取り組むことを決めたことで、学習内容も理解できるようになり、成績も上がりました。人生を変えることは決して簡単なことではありませんが、今、変えなければ、一生そのままです。厳しい道のりでしたが、それを乗り越えたからこそ、私は今、幸せな時間を過ごせています。これまで自分がやってこなかったこと、やり遂げられなかったことに、挑戦してみましょう。「人生はギャンブル」です。できるかもしれないし、できないかもしれません。だったら、やってみましょう。私も、これからの人生、挑戦し続けます。

**校訓**

行 勤勉
立 明同
学 聡
祐 協
治

誠実　勤勉
志高　聡明
自律　協同

## 湖南の冬を体感！

### 体育「スキー授業」

地元出身の生徒を除いてほとんどがスキー初体験、1年生は「ウォー」などと奇声を発しながら楽しんでいました。

湖南高校では、毎年度一月から時間割を組み替え、体育の授業を二時間連続で設定し、学校近隣の福良スキー場で「スキー授業」を行っています。福良スキー場の積雪がまだ十分でない場合は、学校から歩いて一分の場所にある、隣接の旧福良小学校の校庭の小山をゲレンデに見立て、足慣らしをしています。

### 冬のスキー遠足

三年前に復活した冬の遠足、今年も地域の方々が、ボランティア指導員として参加して下さいました。有り難うございます。

いつもの授業とは異なる広いスキー場のゲレンデでの滑走を、午前中は習熟度別に、午後は友達と自由に楽しんでいました。初めて参加した一年の吾妻君は、「最初はまったく滑れなかったけど、教えてもらったおかげでめっちゃ滑れるようになりました。とても疲れたけどやりきれました」と感想を綴っていました。また、これが最後となる三年の三瓶君は、「一年生の頃は怖くてまともに滑る事ができませんでした。ですが二年生になって全然怖がらずに滑れるようになったことが嬉しかったのをとても覚えています。そして三年生になった今は、一番上のリフトまでいくことができるようになりました」と、自らの成長の跡を振り返っていました。

実はこのスキー遠足、四年前に開かれた七十周年記念の座談会の場で、当時の生徒が「湖南高校の魅力をアピールするには、自然をいかした行事、例えばスキーとか」という発言に、地域の代表の方が「俺、インストラクターの資格を持ってるから、やってみっぺ。昔もやってたんだから」と呼応して生まれたものなのです。生徒の声が、学校を、そして地域を動かしたのです。皆さんの主体性が、これからの湖南高校、そして、湖南町を築いていくのです。

### 除雪ボランティア

二月四日、社会福祉協議会の方々の協力を得て、一人暮らしの高齢者のお宅の除雪をお手伝いしました。この行事が始まったのは、四十年近く前の昭和五十七年、地域とともに歩む湖南高校の根強い思想の歴史を感じます。「湖南町のために私たちができることがあって嬉しいです」とのテレビ報道での感想は、生徒たちの自己有用感を物語っていると思われます。地域にとってばかりでなく、本校生にとっても有意義な行事です。

昨年度は暖冬で除雪ボランティアの出番はありませんでしたが、今年度は、皆、大活躍でした

## 地域に根ざしたコミュニティ・スクール

### 第五回学校運営協議会

二月十日、今年度最後となる学校運営協議会が開催され、各分野からの経過報告と、「湖南高校と湖南町がよりつながりを深め、ともに魅力の向上を図っていくためのアンケート」の結果をもとに、来年度の取り組み方針について話し合いがなされました。また、協議の中で、「湖南地域のホームステイ制度を考えるワーキンググループ」の発足が決まりました。

### 蕎麦プロジェクト

湖南の特産品の六次化をめざす『蕎麦プロジェクト』も、いよいよ第一次から第二次産業の段階へと入ってきました。商品化にあたり、独創的な発想やそば以外の特産物とのコラボなどを期待し「そばレシピ」コンテストを開催しました。生徒・職員併せて総数六十五作品（四十五名）の応募があり、教職員審査で商品開発候補として十三作品が選ばれ、生徒投票及び校長審査を経て受賞作品が決定しました。この中から「そばドレッシング」「そばチュロス」「そば粉ピザ」「そばがきのみたらし団子」の四作品を、三月二日に試作します。

＜受賞作品＞

【最優秀賞】「そばチュロス」［永井莉乃亜（２年）］
【優秀賞】　「そばドレッシング」［杉原美奈（３年）］
【優秀賞】　「そば粉ピザ」［渡部祐太（２年）］
【特別賞】　「そばがきのみたらし団子」［藤橋翔（２年）］
【特別賞】　「そばアイス」［牧山美里（１年）］

その他、次のレシピも商品開発の候補になりました
「そばおやき」「そばミルフィーユ」「そばかりんとう」「カレーそばスナック」「郡山西部そばせんべい」「そばの実コロッケ」「そば好み焼き」「そば米のドライカレー」

### ビブリオバトル

一月十八日、今年度、新たに始まった「校内ミニビブリオバトル」を開催しました。沢山の観覧者が訪れる中、三名の挑戦者は緊張気味でしたが、オススメの本を上手に紹介していました。栄えある第一回のチャンプ本に選ばれたのは『か「く」し「ご「」と「』（住野よる）でした。また、今年度の多読賞には一年鈴木来飛君（四十冊）、三年間の多読賞には三年磯貝拓斗君（八十七冊）が輝きました。

### 編集後記

今年度中に、全生徒分のタブレットが整います。新型コロナ感染拡大の際のオンライン学習にも対処できるものですが、それ以上に教室の無線環境と併せ、普段の授業や探究活動で積極的に活用していく予定です。全生徒に還元できるのも、少人数だからこそ成せる技なのだと思います。ただ、ＩＣＴ導入そのものに意味があるのではなく、ＩＣＴの利便性を活かし、一人ひとりの習熟度に応じた効率的な学習指導を展開していくことこそが、私たち教職員の願いです。（猪苗代子）

全教室にwi-fi環境が整い、プロジェクターとロール式スクリーンが設置されました

KONAN

猪苗代湖と磐梯山をモチーフにしたこのロゴは、校内の『湖南町のロゴを勝手につくっちゃお』企画で選ばれた作品です。今後、湖南町の諸機関と共有し、町の振興に活用していきたいと思っています。ご賛同頂ける方は、どうぞ湖南高校までご連絡下さい。

湖南高校まるわかりの近道、学校ホームページは常時更新しています。下記のQRコードからご覧下さい。